

認知症は高齢者だけの

病気ではありません

「一度きりしかない自分の人生をあきらめないで
希望をもって自分らしく暮らし続けたい」

「認知症とともに生きる希望宣言」



認知症とともに
生きる希望宣言

ご相談は、萩市地域包括支援センターへ

萩・川上・むつみ・旭・福栄地域 ☎ 0838-25-3521

田万川・須佐地域 ☎ 08387-6-2017

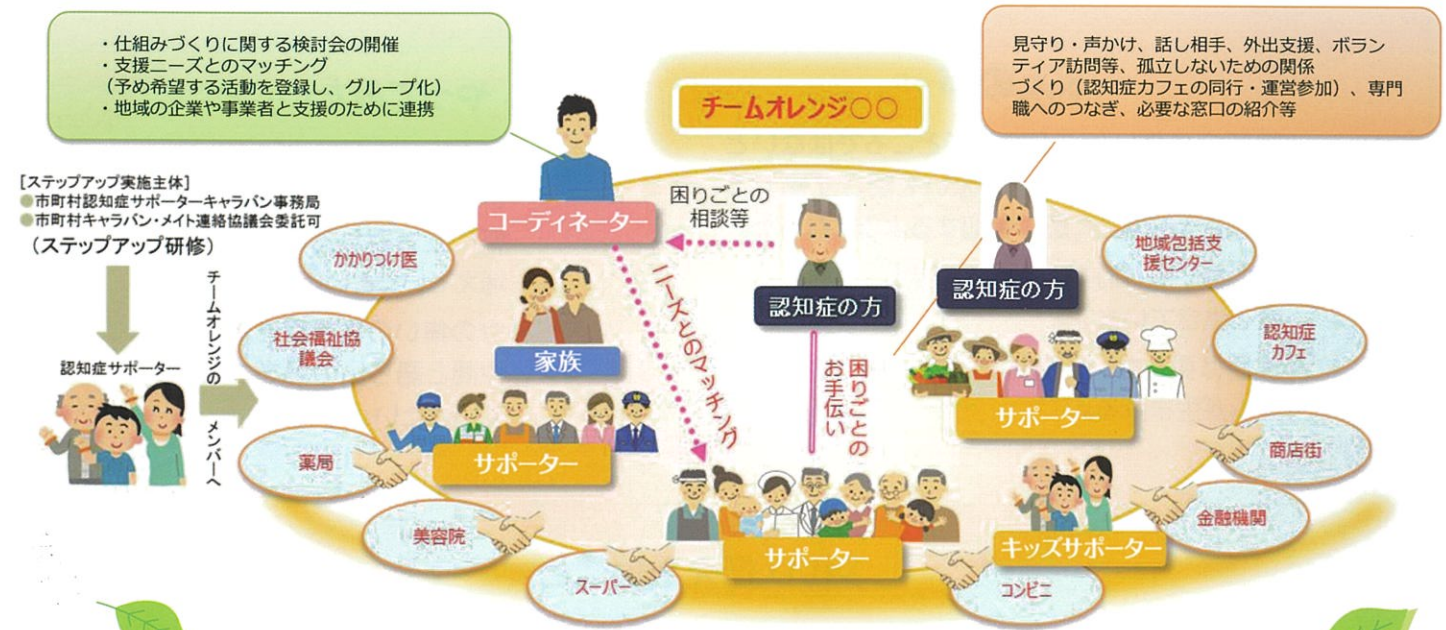
各総合事務所・在宅介護支援センターも相談対応いたします

チームオレンジ活動の推進

あなたも認知症サポーターになりませんか？

チームオレンジ活動とは、認知症と診断されたあと、何らかの福祉サービスにつながるまでの心理面や生活面に対する支援を早期から始めるために、認知症の方や家族の悩みや心配ごと、生活支援ニーズ等を、認知症サポーターを中心とした地域の支援者につなぐ仕組みのことです。

萩市でも高齢者の「通いの場」を中心にチームオレンジ活動を推進していきます。そのためには認知症サポーターさんの力が必要になります。認知症サポーター養成出前講座を随時行っています。あなたも認知症サポーターになりませんか？



「オレンジドクター」をご存知ですか？

「オレンジドクター」とは、もの忘れや認知症に関する相談支援を行う医師で、山口県のホームページで公表しています。認知症はもの忘れなどの症状が軽い初期の段階で発見できれば、生活習慣の改善や治療薬によって、認知症の進行を緩やかにできる可能性があります。



こんな症状ありませんか？

- 新しいできごとが記憶できない
- 時間の感覚が薄れる
- 不安や混乱をきたす
- 性格の変化
- 意欲、判断力、行動力の低下

気になることを、**オレンジドクター**に相談してみよう！

山口県オレンジドクター 検索



若年性認知症って？～早期受診・早期発見が大切です～

認知症は一般的に高齢者に多い病気ですが、若い世代でも発症することもあります。65歳未満で発症した場合、『若年性認知症』といいます。発症初期には「もの忘れ」が目立たない場合もあり、うつや体調不良と間違われやすい症状があることから、職場での変化や生活の変化を見逃さず、早期の診断と治療が大切です。現役世代での認知症発症のため、仕事などができなくなると、家庭的にも社会的にも大きな影響があります。



■治療により改善する場合があります

正常圧水頭症や硬膜下血腫、甲状腺疾患によるものなど、早期の治療により症状が改善する場合があります

■進行を遅らせる治療があります

早期の対応・発見やリハビリ、生活習慣の改善により、進行を遅らせることができます

■今後の生活の準備をすることができます

初期の段階であれば、本人が病気を理解し、家族などに相談することによって、その後の生活に備えることができます

診断後を支える経済的な支援制度や介護・福祉サービス等

精神障害者保健福祉手帳 福祉支援課

手帳の取得により、福祉サービス等の支援が受けられます。また、税制上の優遇措置が受けられる場合があります

自立支援医療(精神通院医療) 福祉支援課

精神通院医療を受ける際に、医療費の自己負担額が軽減される場合があります

傷病手当金 職場の人事担当等に相談

病気やケガで仕事を休み、給与を受けられない時の休業補償

障害年金 市民課、年金事務所、各共済組合

病気やケガで仕事を続けられなくなった場合に受け取ることができる公的年金

障がい福祉サービス 福祉支援課

障害者総合支援法に基づいて、地域での社会生活を支援します

就労支援 福祉支援課、ハローワーク

就業を希望されている障がいがある人に、就労等職業生活に関する相談や支援を行います

介護保険サービス 高齢者支援課

40歳から64歳の方で、認知症の診断により要介護認定を受けた場合、介護保険サービスの利用ができます

※初診日は、精神障害者保健福祉手帳や障害年金の申請にかかわってくるため、重要です。



気づき・診断の頃からの支援（相談窓口）

県立こころの医療センター	若年性認知症支援コーディネーターを配置し、医療、福祉、就労等の総合的な支援を行います	TEL 0836-58-2212
萩市地域包括支援センター	認知症に関しての、地域の総合的な生活支援の窓口です	TEL 0838-25-3521 TEL 08387-6-2017
萩市福祉支援課 障がい福祉係	精神障害者保健福祉手帳に関することや、精神通院医療、障がい福祉サービス等の相談窓口です	TEL 0838-25-3523 FAX 0838-25-5103

若年性認知症と診断された人はどのような思いでいるのでしょうか？

3年半前に、「若年性認知症」と診断された60代男性Aさん。物忘れや物事へ取り組む意欲、動作・思考が緩慢な状態の出現がはじまりだったそうです。現在、認知症研修会での本人発信における講師や本人ミーティング(*)活動をされたりと活躍中。

* 認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場です。



Aさんご本人が語られた本人の声・思い

本人の声

- 認知症の集いは自分のいくところではないと思っていただけ、自分の思いを隠さず話せる、安心できる場だと感じ参加するようになった。
- 私たちには「時間がないんです」今を生きています。
- 理屈は要らない。身体で考え、語らいから微笑みが生まれる。

やってみたいこと

- お互いに自由に話したり聞いてもらったりする場、気軽に立ち寄れる場がもっと増えていくといい。
- 今の集いの場を引き継いで仲間と語らいの場をつなげていきたい。

願い・伝えたいこと

- ゆっくり待ってほしい。
- 病気だと思ってほしくない。特別扱いせずに普通に接して欲しい。
- 「助けてあげよう」よりも「分かちあっていこう」という気持ちで接して欲しい。
- 出来ないことが多いけど役に立ちたい。



認知症本人大使 (希望大使)

認知症介護者家族の会

本人、家族等同じ立場の方同士で安心して、情報交換できる場所です。

認知症の人と家族の会 「萩のつどい」

偶数月 第4日曜日

場所：明倫学舎 2階復元室

時間：10:00 ~12:00



ケアラーズカフェ 「うぐいす」

毎月 第4水曜日

場所：総合福祉センター

時間：13:30 ~15:00



※コロナウイルス感染症の状況により内容が変更になる場合があります。詳細は地域包括支援センターへお問い合わせください。